

学年	教科等	題材名	日時
第5学年	図画工作科	消してかく	令和2年10月27日(火) 4校時

自分だからできる発想や構想を生みだす工夫

子どもは、感じたことや想像したこと、見たり触れたりして捉えたことを基に表したいことを発想し、表すためにはどうすればよいか考え構想していく。本題材においては、黒く塗りつぶした画面を消しゴムで消すことできれる形がつくりだす動きや、色の濃淡、奥行きやバランスの感じ等が、発想や構想の手掛かりとなる。自分だからできる発想や構想を生み出すためには、まず、コンテと消しゴムだからできる表現に気付かせる必要がある。

そこで、本時においては、コンテと消しゴムとの出合わせ方を工夫する。コンテで真っ黒に塗りつぶした画面に、プラスチック消しゴムや練り消しゴムを使って形をつくりだして見せることで、用具の違いによる線や面の感じの違いに気付くことができるようとした。そのうえで、コンテと消しゴムを試させるなかで、形や色等を捉えさせた。ふりかえりでは、グループの仲間によってつくりだされた作品を並べ、比べながら鑑賞させることで、多様な表現があることに気付かせ、次時の発想や構想の手掛かりとなるようにした。

① コンテや消しゴムとの出合わせ方の工夫

子どもを前方へ集め、コンテで塗りつぶしたときの画用紙の表面の感じを視覚的に捉えさせ、同じような感じに塗りつぶすことに挑戦させた。



コンテを使って、これと同じくらいに黒く塗りつぶすことができるかな。



同じところを何回もこすらないと塗りつぶせない。思っていたよりも大変だ。



小さいサイズの画用紙に試させてことで、しっかり塗りつぶすことができるようとした。

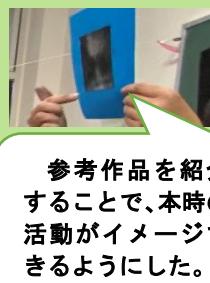
再び前方へ集め、真っ黒くなった画用紙に絵をかくことができるか尋ねた。「爪楊枝で削る」等、これまでの学びを確認し、「消しゴムで消してかく」という新たな技法を紹介した。

クレヨンで塗りつぶしたところを爪楊枝で削ったら、下の色が出てきたから、同じようにできると思います。



この黒い画用紙に、絵をかくことはできるかな。

プラスチック消しゴムと練り消しゴムを使って、形や色をつくりだしていくよ。



参考作品を紹介することで、本時の活動がイメージできるようにした。

② コンテと消しゴムの試し

プラスチック消しゴムと練り消しゴムを1人に1個ずつ与え、自由に試させた。画用紙の大きさも選択させた。

お重ねしたりするのも、線をかいていくといいですね。



プラスチック消しゴムではっきりとした白をつくって、それを練り消しゴムでかいた線でつないだら、星座みたいになったよ。



③ ふりかえり

「見つけた形や色」という視点で、4人グループでふりかえりをさせた。

白い上がぽつんと見えるか、真っ黒のなかに、感じがいいと思う。



授業をふりかえって

- コンテと消しゴムを、時間いっぱい試し、自分なりの表現を見付けていく姿が見られた。
- コンテと消しゴムだからできる表現に気付かせるためには、「形…消しゴムやコンテでつくりだされたもの全て」「色…消しゴムの種類や力加減の違いによりつくりだされた濃淡」という教師の捉えが、子どもにも分かるような、参考作品の提示や言葉かけが必要であった。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）

miyafuken@cc.miayazaki-u.ac.jp

○ 本時の目標

コンテと消しゴムを試すなかで、コンテと消しゴムだからできる形や色等を捉え、自分の思いに合った形や色等をつくりだすことができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり ●研1 ■研2 ▲学び ○その他
1 題材と出会い、気付いたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンテによって真っ黒に塗りつぶされた画面を提示し、同じくらい黒く塗りつぶすことができるか問うことで、塗りつぶすことへの関心を高めることができるようする。 ○ 実際にコンテで画用紙を真っ黒に塗りつぶす体験をさせることで、力加減や、塗り広げることができること、粉が出ること等、コンテで塗ったときの感じを捉えることができるようする。 ● 真っ黒な画面に絵をかくことができるか問い合わせ、これまでの学びや生活経験を基に考えさせたうえで、「消してかく」という新たな方法を紹介する。そうすることで、コンテと消しゴムだからできる表現のおもしろさに気付くことができるようする。 ● プラスチック消しゴムと練り消しゴムを使って真っ黒な画面に線や面をつくりだして見せることで、道具の違いによる線や面の感じの違いに気付くことができるようする。「多面的・多角的に見る」 ● 他にどんな形がつくりだせそうか問い合わせ、試してみたい消し方等を考えさせる。そうすることで、コンテと消しゴムだからつくりだせる形や色等を探していくという本時のめあてにつなげができるようする。 ● プラスチック消しゴムと練り消しゴムの2種類を試させ、しっかり消したときと、軽く消したときの形や色の感じの違いを捉えさせて発想や構想の手掛かりとなるようする。 ● 画用紙の大きさを選択させ、自分の思いに合った活動ができるようにすることで、発想や構想の手掛かりとなるようする。 ○ 文字をかくことに夢中になっている子どもには、参考作品と同じ形をつくりだすことに挑戦させることで、絵をかく活動に取り組むことができるようする。 ○ 画用紙を多く準備しておくことで、全員が時間いっぱい活動し続けることができるようする。 ● グループの仲間によってつくりだされた作品を並べ、比べながら鑑賞させることで、多様な表現があることに気付かせ、次時の発想や構想の手掛かりとなるようする。 「比較する」
2 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時のめあて <p>コンテと消しゴムを試し、いろいろな形や色を見付けよう。</p>
3 コンテと消しゴムを試し、いろいろな形や色等を見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 消しゴムの種類による形や色等の感じの違い <ul style="list-style-type: none"> ・ プラスチック消しゴムで消すと、白色がはつきり浮かび上がってきれいだな。 ・ 練り消しゴムで消すと、ぼんやりとした感じが表現できるよ。月の光のようだな。 ○ 画用紙の大きさの選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ 下から上に向かって長くて太い線をかいてみたいから、大きな画用紙を選んだよ。 ・ これ以上できないというくらい真っ黒にしてから消してみたいから、塗りやすい小さいサイズの画用紙を選んだよ。
4 本時学習をふりかえる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の比較 <ul style="list-style-type: none"> ・ この作品とこの作品は感じが似ているね。 ・ この作品は誰の作品とも似ていないよ。 ・ 色々な表し方ができたね。
5 次時への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習計画表の確認

○ 本時の評価規準

コンテと消しゴムを試すなかで、自分の思いに合った画用紙や消しゴムを選択し、コンテと消しゴムだからできる形や色等をつくりだしている。
(知識・技能) 【観察・作品】